

令和3年第7回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和3年7月16日(金) 14時03分
- 2 閉会日時 同日 15時26分
- 3 開催場所 加西市役所 5F 大会議室
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	植 田 正 吾
教育委員会次長（こども園民営化担当）	
	高 倉 慧 喜
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
教育委員会課長（学校施設担当）兼施設係長	
	井 上 英 文
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
生涯学習課長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	藤 川 貴 博
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

- 6 付議事項

議案第31号 加西市社会教育委員の委嘱について

議案第32号 令和4年度使用教科用図書の採択について

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 31 号 加西市社会教育委員の委嘱について

生涯学習課長より説明する。加西市社会教育委員に関する条例第 2 条及び第 3 条の規定により、加西市社会教育委員に次の者を委嘱したいので、委員会の議決を求めらる。任期は令和 3 年 7 月 22 日から令和 5 年 7 月 21 日までの 2 年間。なお、社会教育委員の定員は 9 名であるが、このたび委嘱する委員は 8 名で全員が再任となる。現在新しく就任する学識経験者を探しているところで、1 名が欠員であるため、今回は 8 名を委嘱する。

教育委員からの意見と質問及び回答

- ・社会教育委員だけではなく、ほかのいろいろな委員の委嘱について、私たちは委員会で決めているが、社会教育委員は一体どのような仕事を今までしてきたのか。

(生涯学習課長の回答) 社会教育委員の主な役割は、地域の社会教育に関するいろいろな計画の立案や企画をしたり、また、教育委員会の諮問に対し意見の答申をしたり、地域課題の解決に必要な調査研究を行うことと社会教育法で規定されている。現在は、事務局から 1 年間の社会教育活動等の報告をさせていただき、社会教育委員のご意見をいただくようなかたちで、年に二、三回会議を設けている。昨年度で言えば、振興計画等について社会教育委員の会議に諮らせていただいた。

- ・具体的なことは何かあるか。

(生涯学習課長の回答) 具体的に加西市社会教育委員会が、何かを提案するまでには至っていない。社会教育団体がされた社会教育活動の報告や生涯学習の報告をさせていただいて、それに対して社会教育委員会の意見を頂戴するといったところでどうしてもとどまっている。今回そのことも含めて委員の構成を少し考え直し、新しく社会教育に精通した学識経験者を委員に入れ、社会教育活動を活発化していきたいと思っているところである。今、お尋ねの具体的に何をしているかについては、まだ活発に活動できている状況にはないというのが現状である。

- ・年に二、三回集まって議題とかはあるのか。

(生涯学習課長の回答) 議題はその都度立てているが、例年、年度初めと終わりの開

催がほとんどなので、年度初めは前年度の社会教育についての報告をして、年度終わりに次年度の予定やこちらの予算状況などをお伝えした上で、ご意見を頂いている。

- ・ただ単に「こういう報告です」で終わって、何も活動は行っていなかったのか。
(生涯学習課長の回答) 現状はそうなっている。しかし、それではいけないということで、社会教育委員の方々からも「社会教育委員の会として、いろんなことをしていかなければならない」という意見を頂いている。県主催の研修や大会といったものには、委員の皆さんがご参加されており、社会教育委員とはどのような役割のかなどはよく理解されている。「もっとこういうことをやっていきたい」とか、「何か具体的にやりたい」というご意見も頂いているので、今からにはなってしまうが、そこを改めていきたいと考えている。
- ・今はいろいろな問題が起こっていると思う。だから、教育委員と社会教育委員が一緒になって活動していくことも大事だと思うので、教育委員会のほうから求めているとはいかがか。何も言わなければ、社会教育委員さんも何もしてこないだろうし、そういうことは必要だと思うのだが。
(生涯学習課長の回答) はい。そのとおりだと思っている。
(教育長の回答) 教育委員さんのご意見は、大変に拝聴する意味のあるものだと思う。人生 100 年時代の中で社会教育というものが大変大事な局面に来ているので、今現場に対しては「もう少し具体的な活動を」と言っている。ただ、大変申し訳ないことだが、今までの現状としては何か社会教育委員会が開かれて、そこで我々がやってることを承認を頂くというところでとどまっていた点もあるだろう、と思う。もう少しきちんと社会教育委員会として何かを提案していただくとか、啓蒙したり、セミナーをするなど、具体的な提案と活動をしてもらえるよう検討して欲しいと言っているところである。今こういう形でしか名簿が出ていないが、生涯学習課長も今後そういう方向へ向かっていってくれると私は思っている。申し訳なく思う。
- ・私も社会教育委員は公民館活動のときに出てこられて、そういうアドバイスか何かをしていらっしゃるのかなと思っていたのだが、話を聞いていたら、こんな言い方をしたらいけないが、その活動は全然動いていないのか。
(生涯学習課長の回答) おっしゃるとおりである。例えば公民館活動に関して、「これが問題ではないのか」といったことを独立して言える立場にいる社会教育委員さんたちであるが、現状は先ほど申し上げたとおり、事務局から年度初めに前年度の活動報告をさせていただいた中で、二、三の質問をするなどしてご意見を頂いている

が、残念ながら先ほどご説明させていただいたとおり会議の場で承認いただくというところにとどまっているのが現状である。

(教育長の回答) 生涯学習課長、それは認識が少し違うと思う。社会教育委員さんはそれぞれの立場で公民館活動をチェックしたり、館長といろいろと話をしたりということもしてくださっている。だから、今の話だと何か会議にただ出ているだけみたいにも聞こえるので、その言い方はやめたほうがいい。

(生涯学習課長の回答) 申し訳ない。先ほどの私の発言は訂正させていただく。もちろん最初に申し上げたように、独立した立場で活動していただけるので、個々には動いていただいていると思う。(各社会教育委員の活動報告を受ける体制にはしていないため、事務局として把握できていないという意味である旨追記する。)

- ・先ほど教育長がおっしゃったように人生 100 年時代になってきているので、公民館館長さんを初め、社会教育委員さんと一緒になって何か地域に根差したそういう場を増やしていただきたいなど、そこからではないかと思う。本当に生涯教育等も重要になってきているので、私も最近、生涯教育のほうをいろいろと Youtube を見ながらとか、そういう資料を見ながらやっている。今の時代は時代だし、100 年時代になってきているので、充実した活動を模索していただきたいというのが本音である。よろしく願います。

(生涯学習課長の回答) ご意見をありがたく思う。このたび、委嘱のご承認を頂けたら、まず最初の取組として社会教育委員さんとお話しているのには、各社会教育委員さんから今取り上げたいことやテーマについての意見を提出してもらい、それについて社会教育委員の会として具体的に取り組んでいくものを決めようと考えている。また、事務局としても、社会教育委員の会で検討してもらいたいことを具体的に提示させていただくことからやっていきたいと社会教育委員さんとお話をさせてもらっている。今頂いたご意見をよく考えて進めていきたいと思う。

- ・社会教育委員の皆さんは立派な方で、その分野でプライドを持ってやってきた方ばかりなので、ただ単に名前を連ねて飾り物のような感じに思われている方もいると思う。どんどん投げかけていってお仕事をお願いしたら、きっといろいろな良い案を出してくださると思うので、そちらのほうからご意見や要望を出されたほうがいいかと思う。よろしく願いしたい。

(生涯学習課長の回答) はい。ご意見をありがたく思う。

- ・あと 1 点伺いたい。加西市に社会教育士の方はいらっしゃるのか。社会教育士という資格を取って社会教育へ反映させている方は全国にいらっしゃるのか、加西市にもそういう方はいるのかなと思った。

(生涯学習課長の回答) 申し訳ない。そこは把握していない。また、ご報告をさせていただきたい。

- ・例えば社会教育主事という資格があり、教育委員会にもそういう資格を持った方がいらっしゃる時もあるし、当然そのOBの方が一般市民としていらっしゃるはずである。このメンバーは長い間変わっていないのか。例えば男性が、校長先生2人を除くと、委員長も含め高齢の方ばかりなので、若い男の人を誰かとか、また、文化財的の知識をお持ちの方などももう1名の候補になってくるのかと思った。

(教育長の回答) 申し訳ないが、今回、9名中8名の委嘱で残り1名は後ほどというのは、今回間に合っていないのに議案を提出しているということで、大変不手際だと思う。実は生涯学習等は、今一番問題視しながら取り組んでいるところである。途中経過で大変申し訳なく思うが、今の教育委員のご意見を含め、もう一度きちんとした提案を再度提出させていただく。

議案第32号 令和4年度使用教科用図書の採択について

学校教育課長より説明する。令和4年度に使用する小学校教科用図書、中学校教科用図書及び学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書の採択について説明する。別添資料に採択の対象や根拠等を示している。

令和4年度に使用する小学校教科用図書、中学校教科用図書及び学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書の採択について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び加西市教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則第2条第9号の規定により、別紙のとおり決定することについて、委員会の議決を求めるものである。

兵庫県教育委員会は、教科用図書の共同採択地区として北播磨地区5市1町を設定している。これまでも小学校、中学校、特別支援学校で使用する教科用図書については、5市1町で組織する北播磨採択地区協議会で協議した結果に基づき、各市町教育委員会で種目ごとに同一の教科用図書を採択してきた。

今年度は令和4年度に使用する中学社会(歴史的分野)の採択替えが可能となったため、中学社会(歴史的分野)の調査研究を協議会で実施した。それ以外の中学校用教科用図書及び、小学校用教科用図書、文部科学省著作教科書については、昨年度と同様の教科書を採択することとなっている。

これまでの経緯は以下のとおり。

- ・令和3年度第1回北播磨採択地区協議会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言措置が取られていたため、書面協議にて行った。

(協議会の運営について採択。協議会の規約、教科用図書採択にかかる日程、調

査員の割当などについて協議し、提案事項について承認いただいた。）

- ・ 6月11日～7月18日 兵庫県内38か所（北播磨地区：小野市、多可町）で教科用図書の法定展示会があり、来場者にアンケートを実施し、集約したものが7月の第2回北播磨採択地区協議会に参考意見として提出された。
（教育委員には、中学校社会（歴史的分野）の教科用図書を計画訪問の際にご覧いただいた。）
- ・ 6月14、22日教科用図書の調査研究を行う調査員会を開催。
（北播磨採択地区協議会が委嘱した調査員6名が、中学社会（歴史的分野）の教科用図書の調査研究を行い、結果を報告書にまとめている。）
- ・ 7月5日 令和3年度第2回北播磨採択地区協議会を開催。
（調査研究結果並びに調査員会からの報告を踏まえ、慎重に協議がなされ、令和4年度から使用する中学社会（歴史的分野）の教科用図書が選定された。）
その結果に基づき、案のとおり採択することについて委員会の議決を求める。

次に、北播磨採択地区協議会で選定された中学社会（歴史的分野）の教科用図書の主な理由について説明する。なお、発行者名は文部科学省が作成した「中学校用教科書目録」による略称を用いる。

- ・ 社会（歴史的分野）：「日文」 文章の丁寧な記述と史料の充実に特徴がある。また、世界の動きの中で日本の歴史を捉える工夫などにも特徴がある。既習事項との関連性や地理分野・公民分野とのつながりが意識できる内容が盛り込まれるなど、生徒が学びを広げる工夫が随所に見られる内容となっている。

こうしたことから、日文を採択したい。今回、新しく発行されたのは「自由社」であった。実際には、昨年度に採択されて本年度に使用している「日文」と新たに出てきた「自由社」とを比較検討する作業が主な検討となった。

続いて、小学校の教科用図書については、発行者から新たな教科用図書が発行されていないため、現在使用している教科用図書を引き続き採択する。

特別支援学校用及び特別支援学級用教科書、いわゆる☆本及び文部科学省の著作本については、文部科学省の教科書目録に掲載されている図書について教科用図書として同様に採択することとする。また、学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書、いわゆる特別支援学校、特別支援学級の子どもたちへの教科書については、一般図書一覧に掲載の全ての図書を教科用図書として採択することとする。

今後、本教育委員会での採択を受け、各学校の担当者が児童生徒の実態に合わせて図書を選定していくことになる。

教育委員からの意見

- ・詳しく採択地区協議会が検討した結果を読ませてもらった。私も「自由社」の教科書を見せてもらったが、コラムとか用語があって読み物としては面白いかなという感じは少ししたが、検討結果には「日文」の教科書には規則性があることや「自由社」の教科書は指導者や学習者が混乱するのではないかという危惧が書かれていて、これについては私もそうかなと思う。ただ、「自由社」は、挿絵や写真がかなりたくさん使われている印象を受けたが、相対的に採択地区の意見はよく見られていると感じている。

9 議決事項

議案第 31 号 加西市社会教育委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 32 号 令和 4 年度使用教科用図書の採択について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

6月22日の前定例教育委員会以後について報告する。

翌日、6月23日は加西市議会の本会議最終日だった。学童保育園設置に関する補正予算の条例改正、そして、特別支援学校スクールバス購入契約については可決していただいた。

25日には、南部公民館の利用者代表より高齢利用者のためエレベーター設置を求める要望書を頂いた。私事になるが、実は思いもかけず車いすを足代わりに利用することになり、それまでは全く頭でしか理解していなかったバリアフリーについて本当に日々実感することとなった。加西市では第6次総合計画で市の基本理念としてSDGsを標榜している。SDGsの基本は「誰一人取り残さない持続可能な社会の実現」ということである。そのことから今回要望のあったエレベーター設置によるバリアフリー化はもとより、本当に血の通ったSDGsの実現に向けて教育委員会としても予算獲得に努力しなければならないと考えている。ご要望を頂いたときにもそのようにお答えした。ただ、南部公民館については建物自体がかなり古くなっており、設置には建物自体を

建て替えなければいけないかという話も多少出ているという。もろもろ総合的に判断して、極力バリアフリー化できるよう頑張ってもらいたい。同日午後には記者懇談会があり、教育委員会として加西 STEAM 教育の推進について発表と説明をした。

6月26日土曜日には、職員採用二次面接試験があり、加西市職員になることを望んで受験する若者たちが大変多く集まってくれていた。その中で人生100年時代の教育やゼロカーボンのまちの実現などの施策やアイデアについて大変熱意を持って語るのを聞き、面接の合否は別として、そういう若い方々、それも加西市で働くことを目指しながら来てくれている人たちの意見なので、大変参考になると思った。

6月28日には、嬉野にある県立教育研修所で兵庫県教育委員会主催「高校教育あり方検討委員会」が開かれた。実は会議が始まった際、県教委から提示されたのは、冒頭から少子化によっていかに生徒数が減少するかというデータばかりが出てきて、私の感触としてはそういうものが次から次に手を変え、品を変え出てきているという感じだった。だから、その先に用意されている高校の統廃合が非常に透けて見えるような内容だと感じた。

我々もそういう手法には大いに注意しなくてはいけないと思った。現在加西市では北条高校のクラス増を県に陳情している状況である。この「高校教育あり方検討委員会」のテーマは、各校や各市町村の歴史、環境、事情を考慮した上でというよりも、そういう文言は一切なく、「生徒数の減少という数の論理をよく認識してくださいよ」というような感じが大変強く、このままでは北条高校の存続も危ういのではないかという危惧を私は感じた。それで、加西市の教育長として黙っていられなくて、会の進め方というか、やり方かなり反論を述べさせていただいた。教育長、中学の代表校長、市の担当部署の3人が各市町から出てきていたのだが、「統廃合ありきで進まないでほしい」、「我々にとっては大事な高校なんだ」というようなご意見がほとんどの市町から出ていた。

私が考えるに、もちろん少子化は本当に大変な問題である。生徒数がどんどん減少していく中で、どうやって教育の質を確保するのかというのは本当に真剣に模索しなければいけない問題である。けれども、「数が減るから、さあどうするねん」、「箱をどうするねん」というようなこの県教委の会議は私にとっては大変ショックなものであった。せめてもう少し本質的に、つまり従来の考え方の線上で数を云々する前に、今日本の教育の在り方そのものが、国際的には一周後れとも二周後れとも言われている現実を本当にもっと謙虚に受け止めて、教育そのもののありようを、つまり高校教育を、むしろひいては大学教育をどうすべきかということを実は議論すべきであるし、グローバルな Society5.0 を前にそういうことを至急検討する必要があると思っている。

ところが、このときの会議も数の論理しか検討されていないのかと思い、大変失望をした。逆の立場に立って、これと同じようなことをやってはいけないなと強く感じた。「もうこんなに数が少ないから、どんどん、どんどん子どもが減るから、北条高校

もいないよ。西脇高校もいないよ。」というような乱暴な話になりかねない運びだったので、かなり強く反対意見を述べてきた。

6月29日は、教育委員計画訪問が実施された。まず、宇仁小学校、泉よつばこども園、泉中学校を訪問した。教育委員さんも本当にお疲れさまでした。私事ではあるが、宇仁小学校というのは私にとって加西市内で唯一の母校である。いつも行くたびに熱い思いが沸き上がってくる。みんなこういうところで育って、大人になったんだなということをしみじみ感じる。泉中学校では、とてもリアルな15歳が合唱する「十五の君へ」を聴き、大変上手に指導されて合唱しており、先生のリードというものでこんなに合唱が変わるのかなというふうに、どんどん良くなっていくのを目の当たりにした。それを聞いて不覚にも涙をしまい、やはり教育というのは大事なものだとしみじみ思った。

6月30日には、STEAM JAPANのオンラインミーティングに参加した。東京の大学の先生も参加され、ミーティングは大変有意義であった。我々が今一生懸命やろうとしているSTEAM教育の具体的な進め方などについて、セミナーもたくさんあるということで、セミナー参加等も含めて、今後も連携しながら現実的にSTEAM教育を展開したいとオンライン会議で強く感じた。

7月1日は辞令交付式があった。教育委員会からもコロナのワクチン対策室へ異動した職員がいる。ただでさえ一人でも人材が欲しいときに、本当に大変で貴重な人材であるが、全庁を挙げてワクチンに取り組んでいるので、もちろん教育委員会も気持ちよく協力をした。しかし、本音では、早くこちらに復帰してほしいなど思っている。

また、辞令交付式の後、引き続き定例校長会があった。いつも私から校長先生方にいろいろなお話を申し上げるのだが、この日は多様化、つまりダイバーシティについてお話した。これは今大変話題になっており、現代社会では人種や宗教、価値観、性別、障害、ライフスタイル、趣味嗜好など様々な属性の人が集まっている状態というのが重要で、この多様化、つまりダイバーシティという考え方は、人材確保という観点からも今日本の企業の中で大変広がりを見せているということを校長先生方にお話しした。学校の中だけではなく、今社会がどのように変化しているかを感じていただきたいと思ってお話をした。

そして、7月2日には、第1回まち・ひと・しごと創生推進本部会議に出席した。その後、前回も申し上げたが、勲章を受けた山下喜久子先生を初め女性校長の草分けの方々と面談を行った。私よりもうひと世代上の方々でいらっしゃるの、言うに言えないご苦労をなさりながら、男性社会できちんと活動、活躍されてきたと実感した。

そして、7月3日土曜日は、九会学童保育園の開園式が行われた。大変いい学童保育園が出来上がったが、これからは単に安心、安全という機能性だけではなく、子どもたちが豊かで幸せになるデザインを追求してほしいと思った。

それから、7月5日に前述の北播磨採択地区協議会が行われた。北播磨の5人の教

育長を初め 10 人の委員が加西市に集まり、最終的に中学社会科の教科書を採択した。ほかにも今年度の教科書を全て承認していただいた。

そして、7月8日夕方から、令和2年度加西市教育委員会点検評価委員会を行った。兵庫教育大学の先生方を初め、教育委員さんたちももちろんご出席いただき、大変遅くまで活発に議論が行われた。遅くまで本当にご苦労さまでした。感謝を述べたい。点検評価委員会で出た問題は、きちんと謙虚に受け止め、令和3年度に活かしていきたい。

7月9日には、給食の調理研修の講師依頼のため加古川へ行ってきた。今度、8月26日に調理師、栄養教諭を始めとした方々に向けて実際の調理セミナーを行いたいと思っている。

それから、7月10、11日の土日曜日には、職員採用試験の三次面接が行われた。面接試験のため、情報が漏れてはいけないので、ほぼ缶詰め状態でお弁当も中で食べるということで、正直に言って本当にくったくたになった。やはり一人の人生がかかっているのだから、あだやおろそかにはできないし、若い人たちが一生懸命面接に対してくれているので、どの子を生かして、どの子を落とすのかは、その場の自分一人で決めるわけではないが、点数1点をつけるのも大変神経を使い激しく疲れた。しかし、実感として今年は大変優秀な人材が集まってきているという印象を受け、これは大変誇りに思った。ほかの市町よりも加西市は少し早く試験をしており、大勢が加西市を受けに来てくれているため、人数が多かったということだ。多いから、結局試験官は大変なのだが、その分本来だったら「もうほかが決まりました」と言って辞退するような子も一応加西市を受けてくれている。日曜日、加西市の面接は、姫路市の筆記試験と重なっていた。それで、「わざわざ姫路を辞退して、加西市の面接を受けております」と言う人もいて、「いやいや、この子通らなかつたらかわいそうや」とかと内心思いながらも、かといって客観的に見ざるを得ない。

「今、加西市は勢いがある町だ」というふうに若い子たちに捉えられているところがあるんだなと思った。そういう人たちが受験しに来ているので、もちろん加西市をよいしょして一生懸命いいことを言ってくれているのだが、それは聞いていると大体分かるので、差し引いて聞くのだが、ふるさと納税や鶴野、気球とか、いろいろとそういう前向きなことが言われていた。それから今やはりコロナの影響があつて、加西市はものすごく自然が豊かで、なおかつ自分が行く気になったら大阪や神戸や姫路にも車でパッと行けると。だから、加西市はすごく住みやすいところだと自分は思うというようなことを、もちろん試験なのでよいしょ半分としても、若い人たちにとってはそういうふうなところだと。だから、「今ここ攻めどころだな」と思い、堂々と自分たちの良さや加西市の魅力を発信していかないといけないというふう感じた。

7月12日は、第1回加西市立総合教育センター運営委員会が行われた。総合教育センターは大変業務の幅も広く大変だが、委員から活発な意見が出て、今年度の教育セ

ミナー、教員研修等々についても非常にバリエーションに富んだ案が出され、とても有意義な会議となった。

7月14日には、前述の給食調理研修、調理セミナーのため、講師の先生と共に北条中学校、北部給食センター、コミセンの調理室などを全部を見ていただいた。さて、ガスの調理台にするのか、電磁調理器にするのかとか、設備にミキサーやジューサーがあるかなどいろいろと見ていただき、結果的に8月26日の調理セミナーはコミセンの調理室で行うことに決定した。

7月30日には東京から服部幸應先生にお越しいただき、食育を通じた人間教育ということについてご講演いただくのだが、私が大事にしたい教育の柱の一つとして食育というのは大変重要である。皆さんも本当に折に触れて給食を食べていただきたい。正直に言って大変おいしいときもあれば、「うわ、もうちょっとメニューに工夫が欲しいなあ」と思うときもやはりある。だから、そういうことも含めてプロの目からプロのアイデアを頂いて、プロの作るとおりに給食を作ることはもちろんできないにしても、やはりアイデアやちょっとした食材の合わせ方など様々なことを少しずつ地道に変えていくことによって、必ず給食は良くなっていくと私は信じている。隗より始めよというが、そういうことをきちんとやっていきたい。

同日夕刻には、加西市へ移住やUターンをしてこられた新規就農の方々数名が教育長室へ来てくださった。加西市にもこうして「加西市がいいから、加西市で農業をしたい」という方々がいることに私は大変感動した。「僕はトマトを作っています。」「僕はレタスを作ってます。」「僕は一次加工で野菜を何とかフレッシュに保たせようと思っています。」というようなことを熱く語ってくれる若い農業従事者が来てくれた。今、私は「給食を柱とした食農教育」と言っているが、農業の活性化も含めたおいしい給食のためのネットワークとして大変心強く感じた。やはりわざわざ加西市に住んで、若くてフレッシュな感覚で農業を始めた方々というのは、農業に対するビジョンが語れると思う。そして、夢があって、熱意がある。私はそれを応援したいと思っている。

教育委員からの意見と教育長の回答

- ・北条高校について少し補足させてもらいたい。北条高校は2023年に創立百周年を迎える。現在、一学年が3クラスしかなく、それを4クラスにしたいということで、今回3回目の署名活動に入ろうとしている。北条高校は人数が少なくても、すごくみんな頑張っている。北条高校については母校でありながら私もあまり知らなかったのだが、例えば昨日は北条高校野球部が小野高校と試合をして負けてしまったという。前は小野高校に勝っているのに、今度こそ思っていたが、今回は少し無理だったようだ。また、放送部もとても優秀で全国大会へ出場する。人数が少ないながらも北条高校はすごく頑張っているのだから、皆さん応援していただきたい。また、

百周年になる歴史ある学校なので、無くしてほしくない大事な加西市の高校である。頑張っていたきたいと思う。

(回答) 私がなぜ「高校教育のあり方検討委員会」で反対意見を言ったかというのと、どの学校にもみんなそれぞれそういうものがあり、それが文化というものだと思う。そういう話を一切出ずに「もうこれだけ子どもが少なくなります。このまま行ったら、1クラスこれだけの人数で、クラス数はこれしかありません」というようなデータが次々と出てくるのは問題だ。聞いているだけで、その先何が言いたいのが分かる。「いや、これはあかんでしょう」とすごく悲しくなった。私は北条高校の出身ではないが、加西市にある大事な大事な普通高校なので、ただ数の問題ではなく、やはり質をどう高めるかということだ。北条高校がなくてはならないと思わせる教育に持って行かなければいけないと私は思っている。

学校教育課長

学校教育課から1学期の小・中・特別支援学校における学校教育活動並びに教職員に関する報告をする。

まず、各校において新型コロナウイルス感染を防止しながら、学校教育活動の充実に努め、21日水曜日にいよいよ1学期の終業式を迎える。教育委員におかれては1年ぶりや2年ぶりの教育委員計画訪問等でご支援いただき、ありがたく思っている。今年には特に6月から水泳指導ができたため、学校で子どもたちが真っ黒に日焼けした姿をご覧いただけたと思う。水泳については、今年も小学校全校で夏休み中のPTAプール解放事業は中止とし、または既に今後も行わないという学校もあり、1学期中にプール納めを行う。

また、6月下旬から7月上旬にかけ、約1年半ぶりに各学校で参観日を実施できた。特に保護者におかれては、学校での教育活動や子どもたちの成長の様子を見ていただく機会がこれまでほとんどなかった。一部の学校はできなかった部分もあると聞いているが、何とか子どもたちの活動の様子を見ていただくことができた。

日々の学習活動としては、教育委員の計画訪問でも、一人一台端末を利活用した授業、それから、ALTが補助に入った英語科の授業などの一端を見ていただくことができたと思う。ただし、やはり足場となる教師の指導力を向上させることは、我々にとっての喫緊の課題であり、いろいろな場面で申し上げている。新しい教育ということではないが、これまでやってきた教育の本質と若手が増えたりベテランの先生が多く退職していく中で、子どもたちにどのような資質能力を身に付けていかなければいけないかということだ。我々も教育のプロとしてセンターと共に研修講座をの実のあるものにしていく必要を、計画訪問等の参観をして改めて思った次第である。

続いて、中学校の部活動について報告する。市内総体、東播大会等の大会も行うことができた。観客の制限や応援スタイルの制限はあったが、実施できたことが何より

も良かったと感じている。特に北条中学校では、陸上の走り幅跳びで全国大会に出場を決めた生徒がいる。コロナ禍において学校や市民に対して元気を与えてくれるニュースが舞い込んだことは大変うれしく思っている。

それから、以前にも報告したが、今年から1学期の始業式と終業式を1日ずつ延ばし、つまり2日間を授業日として増やしており、22日からの夏休みになる。年間4日間の授業日増により、4月は5校時で授業を終えてと報告したと思うが、9月初旬も5校時までの授業を計画している。これにより、子どもたちには休業明けの熱中症対策となり、教職員にとっては、学期当初の会議とか夏休みの課題処理の時間の確保に努めたいと考えている。

引き続き、教職員の勤務等について報告する。まず、1番に申し上げたいのは、市のご配慮により6月28日から教職員に対する新型コロナウイルス感染症のワクチン優先接種が行われている。現在、希望した教職員に1回目の接種が終わり、来週から2回目の接種に入る。学校教育課関係接種対象者については、小・中・特別支援学校の教職員、スクールサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、校務員、それから介助員といった児童生徒に関わる全ての教職員を対象としている。こども未来課関係では、公私立こども園の職員や学童指導員、「つどいの広場」職員、児童療育室職員等、子どもに関わる全ての教職員のうちの希望者ということで市にご配慮いただいた。

次に、平成30年度以降、試行的に行なっている「学校閉庁日」について報告をする。本年度も加西市では8月13～15日の3日間を固定として学校閉庁日とする。したがって14、15日は土、日曜日になるが、学校閉庁日期间には児童生徒は登校しない日とし、中学校の部活動指導も行わない。教職員については、夏季休暇等を取りながら「勤務しない日」とし、週休日と同様で日直も置かない。保護者に対しては各校から文書の配布と市のホームページでも広報をして、ご理解とご協力を頂きたいと思っている。この期間中に緊急連絡を取るような事案があった場合には、昨年度も報告したとおり学校教育課が受ける。有事の際には各校管理職への連絡を行い、対応してもらう。ちなみに一昨年、昨年度ともこの期間中に学校教育課への連絡、問合せはなかった。ご理解とご協力を頂いて、成果が上がっているのではないかと認識している。

質問及び学校教育課長の回答

- ・教育長の質問：学校閉庁日3日間のうち土日が入るのは、ごまかしみたいじゃないのか。かわいそうだと思うが。

(回答) その件は、昨年度も同様に週休日を兼ねており、中学校は週休日でも部活動を行っているので、今年の14、15日については部活動をしない周知になる。ただし、教育長がおっしゃるとおり、土日の分がなくなったような気がするので、11から15

日のうちの3日間で選ぶということを学校に提案したが、閉庁日が11、12日と延びてしまうとかえって教職員の研修等が取りにくくなるので、3日間は従来の固定のほうが良いと学校側が希望した。そういうわけで教育委員会は配慮しようとしたが、むしろ現場の声を聞かせていただいたところである。夏季休暇は、この40日の間にきちんと取ってもらうようにする。

- ・教育長の意見：働き方改革等いろいろ話題になっているし、休むときには休んでから頑張るというのがやはり良いと思う。
- ・ある市では、13、14日に先生方が一気に健康診断を行っているところもある。だから、私も仕方なしに健診業務をしている。

こども未来課長

夏季学童保育について報告をする。

夏季学童保育については、7月26日から8月31日まで、平日午前8時から午後6時半まで実施する。通常の学童保育は午後2時からだが、夏季学童保育は時間が長いので、午前と午後で2班に分けて支援員のシフトを組み、7月は449人、8月は462人の学童を受け入れる予定。もう少し説明をすると、北条学童、北条東学童、下里学童、九会学童についてはそれぞれ2園ある。例えば北条は定員66名とある。これについては、基本運用は1園30名だが、弾力条項で1割程度増しで受け入れることができるとしているので、66名としているところもある。

支援員については、通常52名で実施しており、当然、加配が必要なお子さんやシフトもある。夏季学童については、その倍の人数の支援員確保を目指し、学校の校務員さんやスクールアシスタント、ヤングアドバイザー、夏季休業中の給食センター調理員さんに依頼をして、支援員として活動してもらっている。また、その他で夏季の学生さんも含めて人数の確保をした上でシフトを組んで、通常の数約100名弱の方で実施を予定している。

生涯学習課長

生涯学習課からは「子どものためのあそびとまなびの情報誌」、「こども情報誌」について報告する。市民の方へは広報、ホームページ、ポスター、チラシ等で様々な行事や講座の情報を広く周知しているが、このこども情報誌は子どもたちが比較的活動しやすく興味を持った講座に参加しやすい夏休み中に企画された、市の各担当課や生涯学習機関等が開催する子ども向け講座を一覧にし、学習機会の情報提供の取組として子どもたちに配布している。この情報誌については、6月末に市内小中学校を通じて児童生徒全員に配布をした。今回はイベント数26件、ちょボラの情報を2件掲載し

ている。まだ受付開始になっていないものもあるが、オークタウン加西の状況に限って言えば、申込状況としてはおおむね定員に達しているという。

総合教育センター所長

総合教育センターより2点報告をする。

まず、1つ目は「令和3年度加西市教職員教育講演会について」報告をする。教育講演会は、年に1度、こども園教諭、小中特別支援学校教職員を含む全教職員が受講する研修である。これまで学校安全や道徳教育、子どものネット社会など、全校種に共通する内容で開催している。日々、多忙な生活を送っている教職員が、少しゆっくりした気分になれる夏季休業中に、ゆったりした気分で受講でき、しかし、今後の教育について考えさせるような講演会をと検討してきた。今年度はSDGsとも関連する食育教育について、教育長のお力をお借りして服部幸應先生を招聘することができた。対象は全教職員に加え、給食センター職員、各校PTAも数名参加し、約350名の受講を予定している。当日は市民会館文化ホールにて13時30分から「食育を通じた人間教育」をテーマに講演会を行い、質疑応答も含め15時30分に終了予定。行事予定としても挙げているが、教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中恐縮ですが、ぜひ出席していただけたらと考えている。よろしくお願ひしたい。

2点目、「適応教室の状況と取組について」報告をする。総合教育センターでは不登校生に対し適応教室を開設している。適応教室では児童生徒が体験を通して自立する力を培い、自己有用感を育み、学校復帰や社会的自立をねらいとしている。教育相談員は児童生徒の心に寄り添いコミュニケーション能力を育成しながら、自分で考え動いていく支援を行っている。学校同様に学習タイム、触れ合いタイム、リフレッシュタイム、清掃活動や振り返りなどの日課を組み、調理や畑仕事やハイキングなどの体験活動を計画実施している。

現在の入室状況は8名、見学済み、つまり検討中が3名、そのほかにも入室を視野に入れている児童生徒が何名かいる。しかし、通室生は個々に特性を抱えており、教育相談員が目や手が離せない現実としては、食事もゆっくり取れない状況にあり、場合によっては今後の受入れが厳しい現状がある。今後、入室希望者にどのように応えていくかがセンターとしての大きな課題である。今後の予定は、学校同様に適応教室の終業式を実施し、夏季休業中に保護者との教育相談、また、担任を中心とした学校との連絡会も予定している。夏季休業中も児童生徒によっては引き籠もってしまわないように、また、家庭での居場所のない児童生徒への居場所の提供として、休業中も8月の2週間程度を除いて、毎週火水木は開室日として受入れを行う予定。

1.1 協議事項

なし

1.2 教育委員の提案

なし

1.3 今後の予定について

- ・令和3年第8回定例教育委員会 8月24日(火) 14:00~1F 多目的ホール
- ・令和3年第9回定例教育委員会 9月27日(月) 14:00~1F 多目的ホール

1.4 その他

- ・その他のところで、2点だけお話しさせていただきたい。

図書館の行事予定にもあるが、7月から始まる夏のキッズイベントのビンゴをされているのを見た。まず、図書館に入ったら、広々としたわりとゆったりとした空間でその左手に1年生、2年生のビンゴがあって、3から6年生に分けたビンゴも作ってあった。その後ろには、夏休みの課題の図書があって、興味を持てるような作りになっている。それから、右手には来週から始まるオリンピックのスポーツ応援ということで、今の時期に合わせた図書館づくりの入り口になっているなど感心させていただいた。

(図書館長の回答) ご意見に感謝する。初めに言われた「BOOK×クイズ DE ビンゴ」は去年から行っている。ビンゴカードを作って、いろいろな課題をクリアしていく中で、子どもたちに本をたくさん読んでもらうことがねらいである。基本的にコロナ禍で人がたくさん集まるイベントができなかったので、何とかしようということで、一人でも回れるものとして司書が考えて行っているイベントである。今、カードを配ってみんなを呼んでいるところなので、ぜひ広めていただきたい。よろしくお願ひしたい。ご協力に感謝する。

もう1点として事前に尋ねていないので、数字等はもしかしたら定かではないかもしれないが、実態を教えていただきたい。女性が育休を取るのは当たり前のことで、法律上で産前、産後、それ以降にも取ることになっているが、例えば男性教職員の育休は今どのような実態になっているのか。取得している方の実態と、どのように育休取得の推進や啓発をされているのかを少しお尋ねしたいのだが。

(学校教育課長の回答) まず、男性の育児休暇の実態については、現在取っている人はいない。過去に加西市では1名だけ育児休暇を取った者がいる。数年前になるが半年取った。あと、啓発については、県の教育委員会もかねてより強く推奨しており、「男性のための子育て休暇」というような冊子がある。それを各職員室の一番見やすいところに置く、あるいは個人個人に配るなどして、確実に手元に届くように配慮をしている。併せて子育て休暇が取りやすいように、子育て休暇の計画表があ

り、管理職と幼少の子どもがいる職員と共に「こういうスケジュールで育休を取りましょう」「こういったときには育児参加のような休暇を取りましょう」というような共有できるシートを県の教育委員会が使って、確実に育児休暇を取りなさいと啓発をしている。市教育委員会でも4月など、折に触れて校長会や教頭会で休暇を取るよう啓発している。

- ・これは企業さんも一緒だが、やはり周りが何人も育休を取っていたら取りやすいが、誰も取っていないと自分も取りにくいなという雰囲気になり、なかなか取れないものである。この昨今、男性も育休ができるだけ取れるような雰囲気づくりをしていただき、できれば上司からのそういうアプローチもあるほうが取りやすいと思うので、今後ともよろしく願いしたい。

また、図書館の入り口に入って少し奥の右側に本の消毒が置かれていて、この時期いいと思う。ゆったりした空間でいいなと思って見させていただいた。

- ・前回お話しした県道の街灯の件は、県会議員や市議の方をお願いをしたところ、県道でも市に委ねられていて、市が街灯をつけるものだとお聞きした。また、よろしく願いしたい。

もう1つは少し大きい話で、教育委員会で全てどうとはできないことだが、危機感を感じたので気にかけていただきたいと思う。加西では太陽光パネルがどんどん増えていっている今日この頃である。温暖化のせいで気候がおかしくなり、災害がどんどん増えている。病院南側の山のところは今太陽光パネルを張る工事をしていて、先日の学校訪問ですごく雨が降っていたときそばを走ったのだが、集中豪雨ですごい土砂が流れ込んでいくのを見て怖いなと思った。すぐそばにこども園も北条東小学校もあるので、何ともなければいいが、今後は気候がどんどん変わっていくので、あれは本当に心配だと思う。

市議会議員に聞いたところ、平米により管理されていて、法律に守られているのでどうもできないと言われた。それはやはり法律も変えていかないといけない。今後、本当に気候がおかしくなっていくと、災害も大変なことになっていくのではないか。パネルもすきほうだいにではなく、もっとも法律のことなので、教育委員会でどうこうということではないが、危ないし、病院のところも心配なので、子どもたちには一言注意していただければと思う。また、来ていらっしゃる市議の方にも、パネルのことを問題視して欲しいと思います。

加西では山が結構たくさん削られているので、お金もうけのためだけで考えるのではなく、今後環境のことを考えていき、法律を改定していかないと、大変なことになるのではないかと思う。大きなことだが、病院のところは子どもがそばを通過して帰るので心配だ。

(教育長の回答) つまり太陽光パネルによる、がけ崩れなども含めた災害の危険性が出てきているのではないかというご意見だと思う。太陽光パネルで SDGs と言っても、景観や緑化が阻まれたら、どうなっているのかなということもある。景観条例のようなものをつくっているところもあるし、また、議論はしていかなければならないと思う。安全かどうかということも確認をしていきたい。

(学校教育課長の回答) ちょうど計画訪問の後、昨日と一昨日、あそこは土砂災害がありそうだと分かっていたので、我々も庁外へ出たちょうど3時過ぎにそちらを通過して帰ってみた。雷雨はあったが、北条東小学校の教員が前後ろに1名ずつついてくれていて、さらに雨宿りするように児童を止めてくれていた。あと、引渡し等の配慮は学校がしているのだが、昨日、教頭会で教育センターのほうでも危険な際には公用車でパトロールをしますと啓発してくれている。1台しかないのでどこまでできるか分からないが、そうした警報が出たときや災害がありそうだいうときには、教育委員会が受けて対応するように学校と常に連携を取っているので、併せてその辺りも気をつけていく。

- ・ 1つは、生涯教育課長の報告で説明された子ども情報誌のことで言おうかと迷っていた。本当にいろいろな工夫をされた講座というか、子どもたちのログウッド教室であったり、プログラミングであったりと、STEAM教育にもつながるような講座を考えていただいている。図書館も含め、子どもたちが夏休みに興味があることを、学校以外でもいろんなことしたいと思えるような講座を組んでいただいているので、感謝を伝えたい。私も行きたいなと思って、もしかするとのぞきに行くかもしれない。

2つ目は、教育長も言われたことだが、今回9時過ぎに警報が出たかと思うが、学校の先生がどうしようと迷われて、とにかく雨雲の動きを見たり、小中学校間で連絡を取り合ったり、給食を食べさせるか食べさせないかと様々な検討をされて、保護者に連絡された。親御さんは、「小学生は給食食べんと帰されたら困る」という意見が片方であったという。今回は雨雲だったが、台風が近づくような場面で警報が出たら、それは給食云々とは言っておられないという話が地区懇の中で出ていた。とにかく先生方が情報を見て、天気図や雲の動きも見て、どうしようということでも動いていただいたということがとても伝わってきた。改めてこれから台風シーズンになるし、本当に気象が不安定になってきているということもあり、警報等が出ることはあると思う。対策をマニュアル化することはできないとは思いますが、様々な情報を収集して、迷われたら教育委員会へ相談もあろうかと思うので、よろしく願いしたいと思う。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和3年7月16日

出席者

(出席者署名)